

反応の多い料理レシピにおける構成要素と表現

—クックパッドを例として—

佐藤 莉乃

近年、コロナ禍を経験して家の中で過ごす時間が増えたことに伴い、必然と外食をする回数が減り料理を作る回数が増えた。その際、多くの人がサイトやアプリを使って、レシピを見ながら料理をしている。レシピサイトやレシピアプリには様々な種類があり、中でもユーザーがレシピを記述して投稿することが出来る、ユーザー投稿型のレシピサイト・レシピアプリは、自由に記述したレシピを投稿できるため人によってレシピの記述の仕方が異なると考えられる。

本研究では、ユーザー投稿型レシピサイト・レシピアプリで最も利用されているクックパッドを例に、反応の多いレシピと少ないレシピの違いを調査し、反応の多いレシピの記述状況を明らかにすることで、ユーザー投稿型のレシピサイト・レシピアプリにおける投稿者の一助になることを目的とした。

そこで、投稿されたレシピを見て料理を作ったことを報告する「つくれば」の件数を利用者の評価の指標として、つくればの件数が多いレシピを利用者の反応が多いレシピと定義して調査を進めた。調査対象は、家庭の定番料理 20 種類から、上位下位 28 件ずつのレシピを対象とした。調査項目は、写真がある構成要素には写真の有無、テキストがある構成要素には全文の文字数、文の数、一文の平均動詞数、記号の数、記号の種類など、構成要素の表現形式ごとに調査項目を設定した。

調査の結果、まず写真の使用率については、下位より上位の方が高い傾向にあった。特に、レシピ冒頭にある料理の写真は、上位には 100%あり、料理の写真が無いレシピは必ず利用者の反応が少なかった。次にテキスト部分については、どの構成要素においても下位より上位の方が文字数が多かった。しかし、一文の平均文字数や一文の平均動詞数の数は、上位と下位であまり差が無かった。これより、一文内の文章の書き方にはほとんど差は無く、上位の方が単純にテキストで記載された情報量が多いことが分かった。最後に記号においては、下位より上位の方が数が多く、出現した記号の種類は、上位と下位で似通っていた。特に、文脈に付随して使われる () や・より、☆や♡、♪など文脈に関係なく装飾のために使われている記号の出現回数の方が、レシピ全体で多かったことから、記号で華やかさや親しみやすさが演出されているレシピは反応が多いことが分かった。

今回の調査で、クックパッドで決められた形式や字数制限があることが明らかになった。他のユーザー投稿型のレシピサイト・レシピアプリでは、異なる表現形式のレシピも存在することから、記載状況の新たな傾向を探る研究の余地が存在すると考えられる。

(指導教員 三波千穂美)